

スマート農業を実践し地域の農業を守っていく！

あきたで生きる～秋田の地域資源を活用し、秋田で暮らし、秋田を活かす取組～



株式会社 食農
(大仙市払田)
代表取締役 土井 文智(ふみとも)

経営形態 | 水稲: 39ha
| 大豆: 14ha、作業受託 20ha
| アスパラガス: ハウス7棟
構成員 | 役員1名 社員1名 臨時雇用3名
販売先 | JA
無人ヘリ「株式会社アグリスカイ仙北」取締役兼オペレーター

高校卒業と同時に就農した土井文智さんは、スマート農業の実証試験などへ積極的に協力し、自らも無人トラクターや直進アシスト田植機などスマート農業を導入し先進的な農業に取り組んでいます。また、仲間と無人ヘリの会社を立ち上げ、旧仙北町全域のほ場の防除作業等を一手に引き受けるなど、地域農業を担っています。

▶ きっかけ

地元の農家に生まれ育った文智さんは、父親から農業継承を言われ続けていました。当時、周囲で就農する同級生はいませんでした。自身は農業以外の選択肢はなかったとのこと。



ドローンで直播した実証田

▶ 取組

就農後から徐々に経営面積を増やし、経営を安定させるため「株式会社食農」を設立しました。当初は様々な取組にチャレンジしてきましたが、現在は稲作、大豆にアスパラガス栽培の複合経営を行っています。

大豆は栽培技術の確立に努め、昨年、「種苗交換会(秋田県の農業の祭典)」へ出展し、品質等が評価され、最高位の農林水産大臣賞を受賞しました。

農作業の省力化を図るため、地域でいち早く無人トラクターや直進アシスト田植機などスマート農業を取り入れ、先進的な取組を行っています。無人トラクターは1人で2台操作できるため、作業効率が上がり収益向上に繋がっています。

また、大仙市と秋田県立大学のスマート農業用機械を活用した省力農業の実証試験にほ場を提供するなど協力を惜しみません。



無人トラクターと土井代表

文智さんは、近隣の農家5名で無人ヘリ防除の「株式会社アグリスカイ仙北」を立ち上げ、無人ヘリ5台、ドローン1台で旧仙北町全域(約 1,900ha)の防除のほか、依頼があれば直播、追肥等も引き受けています。

今年大仙市から、先進的な取組や地域のリーダーとしての活躍が認めら

れ、将来の農林水産業を担うことが期待される若手を表彰する「大仙農業元気賞」を受賞しました。



直進アシスト付き田植機

▶ これから

払田地域では、今後10年で離農者も増えると想定しており、耕作放棄地にならないよう地域の農業を守っていく考えです。そのため100haまでの規模拡大に備えた施設も検討していきたいと話してくれました。



アスパラガスのハウス

